学校法人スコーレ創立70周年記念竣工写真

学校法人スコーレ全景

高校教科棟

高校教科棟とアリーナ

アリーナ

アリーナ正面玄関

高校ハウス棟

高校男子寮（桐輝寮）

高校女子寮（桐花寮）

幼稚園

スコーレレストラン「パタタ」

Patata（パタタ）とはギリシャ語でジャガイモの意味。学校法人スコーレでは、「学校の情報発信源にしよう」と、2004年4月にレストランPatata（パタタ）を開店いたしました。
パタタのメニューには、生徒が授業の調理実習で作るものと同じオリジナル献立もたくさんございます。また、焼き立てパンの販売も致しております。パタタのメニューには通信販売しているスコーレオリジナルのケチャップやソースなどもたくさん使用しており、安心してお召し上がりいただけます。是非お気軽にご利用くださいませ。お待ちしております。

【営業時間】AM10：00 OPEN ～　PM 6：00 CLOSE
ランチタイム／AM11：30 ～　PM 2：00

【定 休 日】日曜日・祝祭日・第二土曜日・第四土曜日

【所 在 地】盛岡市向中野才川2-3　TEL.019-636-4566　FAX.019-636-0890

THINKING LIVING PRAYING 1933 ΣΧΟΛΗ

ΣΧΟΛΗ
協力会報

NO.49［平成17年1月］
発行
スコーレ協力会
〒020-0851
岩手県盛岡市向中野字才川2-3
TEL.019-636-0827（代）
FAX.019-636-0830
E-mail. info@schole.jp
http://www.schole.jp
振替口座02380-0-479

新しい一歩

協力会会長　谷澤 篤則

会員の皆様お元気ですか。いつもご協力いただきありがとうございます。

皆様方の暖かいご支援、ご協力のお陰様で創立７０年を無事に終えることができました。誠にありがとうございました。

７１年目を迎えまた学園は新しい一歩を刻み始めました。学園の外構に関わる周辺の道路工事が遅れておりましたが、北側と西側の一部が来年度上期には漸く着工の予定になっております。南側の住宅移転とグランド部分に当たる地域の整備は１８年度以降に持ち越されていますが、近々の中には整備に手を着けられる予定と伺っております。いよいよ長い間関わってきた学園の新構想計画も最終期を迎えております。学園へ盛岡駅よりのアクセスもすっかり変わり、駅南口よりほぼ一直線で学校の西側に到達するようになりました。学園の周囲の景観も全く変わり、仙北町の踏切を超えると田園風景の中にぽつんとあった学校のイメージはまるでなくなりました。暫くぶりに学園を訪れる人には昔日の面影はなく、見知らぬ新しい土地にきたような気がするかもしれません。

新しい時代に即応しながら「生活即教育」の精神を遺憾なく発揮して、これからの時代にこそ生かされる精神をますます充実したものとして大いにがんばってもらいたいと心より思っております。

どうか協力会会員の皆様のさらなるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

70周年記念事業竣工式挨拶

学校法人 スコーレ　　理事長　毛利　二郎

学校法人スコーレの創立７０周年記念として取り組んで参りました諸々の改革事業の一環としてアリーナ・ハウス棟竣工式を行うに当たり、その間多くの皆様方よりいただいたご支援、ご協力に対して心より御礼を申し上げます。長い間にわたり誠にありがとうございました。

学校の創立記念日とは、人で言えば誕生日のようなものでしょう。日頃あまり考えない個人と社会の歴史的経緯を振り返り、未来に向けて思いを新たにする日だと思います。

本校は１９３３年昭和８年に盛岡友の会生活学校として文字通り生活を勉強するという心意気で始まりました。昭和８年という年は、世界史的に見てもとても大事な年です。日本では三陸大地震・大津波に見舞われ大冷害の年でした。ドイツではヒットラーが首相になり、アメリカではニューディール政策が施行され日本は国際連盟を脱退しました。この年を契機に世界が大きく変わり始めた年です。

私見ですが近代日本の歴史を考えるときに、今から１５１年前１８５３年のペリー浦賀来航が大きなターニングポイントであると思っています。大げさにいえばこのときから日本は表日本と裏日本が入れ替わりました。そして明治維新を経て１８７２年に学制が、翌１８７３年に徴兵制が敷かれ近代日本への道を進み始めました。

それから６０年後に我が学園が産声をあげたわけですが、現代は近代学校制度の基礎ができてからすでに１３２年目を迎えていることに留意する必要があると思います。この個人と社会の関連性と歴史的経緯というものは、ややもするととかく忘れがちでありますが、実は私たちの実生活にとって非常に大きく影響するものであり、このことは現在も何ら変わっておりません。私たちの仕事はこれから先１５年２０年というスパンで活躍する若い人たちを相手にしているわけですから尚のこと当然先を見ていかなければなりません。

私たちの学校の歴史は、八戸出身の偉大な教育者でありジャーナリストであった羽仁もと子女史がつくった三つのもの、創刊１００年を越える歴史をもつ月刊誌「婦人の友」、その読者が中心になってできた「友の会」、そして自らのこどもを育てるためにつくった私学「自由学園」がありますが、盛岡でその熱心な読者であった二人の女性によって１９３２年に始められた盛岡友の会を母体に１９３３年盛岡友の会生活学校として出発しました。

思想しつつ、生活しつつ、祈りつつの精神のもと、草創期においては社会の混乱変革の中で生活の改善に主体をおき、よき生活とよき家庭を目指し社会に貢献しようという精神でしゃにむにがんばりました。戦後社会が成長期安定期に向かうとともに学園もいくらか学校の体裁が整いさらによりよき家庭、社会を目指しての女子教育に力を注ぎました。やがて高度経済成長が一段落し、急激な情報化社会に突入すると同時に高学歴化・少子化のなかで学校に対する社会からの期待感に微妙な変化が現れ始めました。その頃、地域の発展の一環として盛岡南新都市整備事業が始まり周囲の環境が将来的には大きく変わることが明確となり、同時に本校の木造建物の老朽化が問題となり始めました。

このような社会的経緯の中で、期待される学校像とはどのようなものかと模索していく時代がしばらく続きました。カリキュラム構成、教科の内容、評価の仕方、入試方法、行事の持ち方、生活時程、科と学年・クラスの関係など検討課題は山積みでした。

そして１１年前、１９９３年平成５年の７月に東京で「２１世紀への魅力ある学校づくりセミナー」という勉強会で長倉先生の講演をお聞きしたことが契機となり、以来先生のご協力をいただきながら教育改革へ向けてソフト・ハード両面からの改革計画を検討して参りました。その間、学校教育の効率化に同調しない、生徒・園児一人一人個々の成長に合わせ彼らを育てていく学校空間をいかに創造するかに心を砕いて参りました。それは近代日本づくりに非常に効果的に作用した教育効率追求システムの終焉を意味しています。

１９９６年平成８年に当時文部省より「文教施設のインテリジェント化に関するパイロット・モデル研究」を実施、その報告を受けて、総合学科への移行を踏まえて翌年よりいよいよ建物の建築に取りかかり、１９９８年平成１０年より校名の変更と同時に総合学科として新しい出発をしました。以後女子寮の新築、平成１２年の「コミュニティの拠点としての学校施設整備に関するパイロットモデル研究」などを経て幼稚園の移設改築など行い、昨年１年ハウスを含む教科教室棟の増築にあわせてこのアリーナと男子寮並びに事業部棟の新築を行いました。

総合学科とは単位制・選択制を柱とした新しい学科であり、必修科目に「課題研究」・「情報」・「産業社会と人間」という３教科があります。そして今や課題研究と情報はどの高校でも必修となり総合学科の特徴とはもはやなりえず、逆に全ての高校が総合学化しいる状況です。数度にわたる指導要録の改訂、学校五日制などを経て学力の低下などが問題視されています。

ところで、校名にしたスコーレですが、これはもともとスクール、学校の原語となったギリシャ語のスコレーからとったもので、当時はおそらく時間とか余裕というような意味で使われたものが、やがて余暇になり遊びになり学びになったものだと思います。いずれにしても万人に平等に与えられている時間と知的好奇心がその根底にあると思って間違いないと思います。

本校の建学の精神「生活即教育」は、平たくいえば生きることは勉強、人間とは多くの人やことばと交わることによって互いに成長していくもの、ときに生徒になりときに教師となりお互いに接し合うことによってよき家庭をつくり社会をつくる努力をするものだと考えています。社会的ルールを守ることによって自由は保障され、個々の人格を尊重することによって一人一人が生かされていくと考えています。単なる机上の勉強だけが勉強ではなく、体験を積み重ねながら学んで行くことも大切です。そして時代は今まさにますますそういう人を求めているのではないでしょうか。個人を比較し序列をつけることの無意味さ、経済力や軍事力に序列をつけて比較することのばからしさ、それは決して人を幸せにはしないと歴史が指し示しています。個人でも社会でも物質的な豊かさを追い求めても限りがありません。

これからの日本は、経済力や軍事力で一流国になることより、精神力で一流国になる道を進むべきでしょう。最初にその思いがあることが大切です。思想しつつ生活しつつです。自己の思い、自己の価値観を大切にするためには他者の存在を否定していては成り立たない道理です。まず個人一人一人がその原点に立つことが大切です。そして他者との交流が重要な意味を持つと思います。

お陰様で立派なハードは完成しましたが、さらにより新しい時代に向けてのソフトを考えることがこれからの課題です。

４年前に全学が共学になったのを機に校歌を作り直しました。思わず口からこぼれだしてしまうような軽快なリズムとメロディ、そして日本語だけでなく世界共通言語といわれている英語バージョン、アジア言語を代表して一番近い国のハングルバージョンの歌詞がある珍しい校歌です。

蛇足ではありますが、音楽やスポーツというものは、人生のスパイスのようなものでいかに人生を楽しくしてくれるかという意味で大事なものです。この喜びは人との交わりの中から生まれてきます。幼稚園のリビングルームが町内合唱団の方に利用されたりお母さん方の交流の場になっていることはとてもうれしいことです。このアリーナも多くの方が上手に利用してくれればいいなあと思っています。学校は既成の決まりにとらわれるのではなく、大いに公開されその中で活発な交流が行われるのが理想だと思います。校内レストラン『パタタ』も同様な発想です。

学園を囲む道路がまだ完成をみず、全体としてはまだまだ途中です。これからも皆様方のご支援ご協力を必要としています。今後のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。